



都図研広報発行 平成30年度都図研ニュース

10月号 / 2018

# 城南大会

第57回東京都図画工作研究大会（都図研70周年記念大会）

## 大会テーマ 子供の夢中から生まれる～今をつくりだす図工の時間～

開催日 平成30年11月8日 in 品川区立第三日野小学校

大会テーマ「子供の夢中から生まれる～今をつくりだす図工の時間～」では、形や色、イメージ、ひと、もの、ことなど、子供たちを取り巻く事象を見直し、新たな意味や価値を創造する図画工作を目指しています。「胡蝶の夢」（荘子作）という漢文があります。蝶になった夢を見ている男が、自分が人間なのか蝶なのかわからなくなる境地に達するという話ですが、自分の欲することに没頭し、その時間が図工の授業であることさえも忘れてしまう心境と似ています。そんな夢中になるひとときをできるだけたくさん子供たちに味わわせるために我々がすべきことは何かを、城南6区の指導者がこの研究を通して追究してきました。

当日は、5つの分科会（うごきだす・つながる・かかわる・おもいをひろげる・からだでかんじる）、都図研研究局、他校種連携、小中連携に分かれ、1～6年19学級の授業を行います。皆様のご参加を心よりお待ちしております。  
城南大会実行委員長 長井 哲郎（品川区立源氏前小学校）

### 都図研マガジン

## 作品づくりはやめて、未来をつくる仕事をしよう

特別委員会「教科提案部」とは何なのか？

昨年度立ち上がった都図研の新しい組織「教科提案部」。新指導要領への移行が始まる今日。提案部は、一体何を、私たちに提案しようとしているのか？ 立ち上げに関わった3人に聞いた。



橋田：皆さん、授業ってどうやってつくっています？ 僕は地方で担任をやっている、その時図工の時間って一体何をしたらいいのか全然分からなかった。わかりやすい題材ネタをやるしかない。単発の題材のネタを集めて、順番にやっていく感じ。

宮崎：僕も同じく担任をやっていた時、同じ経験しているんです。その後、東京で図工専科になって、単発題材をつくるだけじゃ駄目だって考えるようになった。

藤井：そう。小学校6年間の先に子どもたちがどう生きていくのを見据えています。点(題材)だけの研究から線の研究へ、広い視野で考えたいですね。

—それが「点から線へ」「目指す大人像から逆算して」っていうところですね。

藤井：それで、提案部では題材を提案するんじゃなく単元を、さらにはカリキュラムを提案しようと思っているんです。もっというと、カリキュラムを提案できる先生になりたいし、皆さんにもなってほしい。

宮崎：カリキュラムマネジメントするって、つまり、僕らは「作品をつくりたいんじゃない。未来をつくりたいんだ」という意思なんです。

橋田：そう。「君たちが、地球温暖化を食い止めるんだ」と子供に伝えています。今の大人ができない創造的な課題解決ができるように、今、あなたたちは図工をやっているんだよと。

それで、材料とか用具や、平面とか立体じゃなくて、「育てる力」でタグ付けして、授業を一覧できるターミナルみたいなウェブをつくれなかと目論んでみたりしています。

—壮大な野望をお持ちですね。その情熱はどこから来るんでしょう。

藤井：危機感があるんです。指導要領が変わっているんじゃなくて、時代が変わっている。僕たちはそれについていけないといけなし、流されない「哲学」をもたないといけなしです。

教科提案部公開授業 2019年1月24日（木）稲城市立稲城第二小学校 展示会場にて

宮崎恒平（立川：新生小）、橋田朋憲（小平：小平三小）、藤井隼人（北：神谷小） 聞き手：渡邊裕樹（昭島：つつじが丘小）

## リレー掲載 中野区立みなみの小学校の図工室

学校でひとつの図工室。普段はなかなか見ることのない他校の図工室を訪れて、気になる所を突撃取材！

### 城西ブロック

今回は、山内真帆先生の図工室を取材します。



お天気のよい日、京王線の笹塚駅から徒歩15分程の杉並区・渋谷区の境にある中野区立みなみの小学校へ。昨年度統廃合し開校されたばかりの学校で、今は旧新山小学校の校舎ですが、2年後には新校舎移転予定だそうです。

教師道場や研究員を終え、昨年度異動されたばかりで展覧会までこなしたパワフルな山内先生は、10年目以上の中堅の先生です。

図工室へ案内いただくと、たどり着いたのは校庭の隅にあるプレハブでした。「周りに迷惑をかけず気楽で気に入ってるんです」と笑顔の山内先生。実はお腹がふっくらとして1月から産休に入られるため、なかなか思うように動けなくなることも多く、校舎引っ越しも見通して材料や用具にはわかりやすいよう表示をして配置し、授業中でも子供たち自ら取り出しやすくしているそうです。また目に留まったのは、図工室の片隅にあったカラフルなアクリル絵の具の容器。すぐ

乾いてしまうことや、思わず一度にたくさん使ってしまう子供たちのために、フタ付きの容器にスプーンを入れてパレットにとれるようにスペースを確保し、倒れてこぼれないよう木材で滑り止め付きの専用置場を自作していました。これは初任の時から使っている方法とのこと。アクリル絵の具の保管はいろいろな方法がありますが、実態や学校に合う方法を見付けたいものですね。

そして、早く活動が終わってしまった子供たちのためにトリックアートやペーパークラフトのワークシートをたくさん準備されているのも発見しました。廊下にはブロンズ粘土を使った6年生の作品も並んでいます。さまざまなアイデアがまだまだたくさん詰まったプレハブの図工室は秘密基地のような気分にもさせてくれる場所でした。

取材担当者：後藤真理子（千代田：富士見小）



## 研修会Ⅱ 開催決定

平成30年 12月3日（月）  
東村山市立萩山小学校

平成30年12月3日（月）東村山市立萩山小学校にて研修局・研修Ⅱを開催いたします。

研修Ⅱの第1部は、東村山市立萩山小学校の大森 直子先生の授業参観を中心に行います。第2部では、グループワークと文部科学省の岡田 京子先生のご講演を予定しています。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

本研修は、研修Ⅰに参加された方は全員参加予定ですので予定ください。（今回の申し込みは不要です。）研修Ⅰに参加されていなくても研修Ⅱのみ参加することも可能です。各地区で配布される用紙に必要事項を記入し、お申し込みください。申し込み後、やむを得ない事情で欠席される場合は、必ず事前にご連絡ください。

受付：13：10～ 研修会：13：40～16：45

研修局 原 薫美子（町田・七国山小）